

蜂刺され防止対策

の一考察 (919)

能代署・担当区事務所 ○山嶋信二郎

奥村 運蔵

はじめに

私たちは毎年、蜂が飛び交う活動期に下刈・除伐・地拵・植付等の造林事業を実行していますが、現場では常に蜂刺されの危険におびやかされながら作業をしています。

当署における蜂の被害防止対策については、営林局指導を受けて保護具の完全着用・殺虫スプレー等携行品の充実・事前見回り・仲間同志の話し合い・安全衛生委員会での意見交換等を実施していますが、依然として蜂災害は減少していないのが実態である。

そこで、当田代担当区で実施し減少の成果のあったことについて、報告します。

1. 取り組みについて

能代営林署管内の国有林は、1市5町1村の広範囲にわたっており、管理面積は約13,300haで人口林率は秋田スギを主体に72.1%の現況になっています。各事業を実行する中で労働安全の確保については、署・現場一体となり取り組んでいます。

しかしながら、残念なことに毎年労働災害の発生をうみ、また疾病等による公務災害も多く発生している状況になっている。蜂災害については、表1のとおりである。

表1 年度別蜂災害発生件数

局 署 別	60年度	61年度	62年度	63年度	元年度
秋 田 局	217	126	166	243	122
能 代 署	10	4	9	10	5
内 造 林	10	4	8	8	3
訳 生 産			1	2	2

こうした中で、何とか蜂災害を少しでも減少させるため次のことを実施した。

- (1) 事前見回りの充実
- (2) 蜂を捕獲し、実物を見て全員で実態の周知
- (3) 蜂の標本作成

2. 具体的な取り組みについて

(1) 事前見回りの充実

営林局指導では、一定の方向づけをしておりますが、これに基づき当担当区では、具体的に次のように実施した。

- ア. 作業に入る前に主任、又は主任指名者が当日の作業区域を見回りした結果を作業員全員に報告する。
- イ. 午前・午後の作業開始時より防蜂網を着用し、殺虫スプレーを携行のうえ100cm位の木片と黄色いテープを持ち、藪・枝条・古伐根等を調査し、特に小峰・沢筋は小石を投げるなどして綿密に実施する。
- ウ. 万一、危険箇所及び生息箇所を発見した場合は、前もって準備してある標識を標示する。林地目印は勿論のこと歩道の入り口、作業箇所にも標示する。
- エ. 作業後打ち合わせの実施
作業終了後は、全員が集合し危険箇所が無かったか等現地の状況を把握する。

(2) 蜂を捕獲し、実物を見て全員で実態の周知

安全座談会の中で蜂災害を防止するためには、なによりもまず蜂の習性を知る必要があるのではないかと仲間からの声があり、話し合いの結果、次のようなことを実施した。

蜂の捕獲については、他局・他署・当署でも実施している日本酒・砂糖・食酢による誘引法を行い、当担当区はこれにオレンジジュースを加えた。捕獲容器については、従来は酒瓶を使用して林地に縦型に設置したが、今回はいろいろと研究した結果、ジュースの入ったポリ容器を利用し横型に設置した。

このように設置することにより、ポリ容器ですので太陽熱が当たることによって、従来のものより発酵率が高く、また臭気をよく発散しますのでこの誘引により蜂が入る確率が多くなった。

風下に対して横に設置すること、さらに底面積が広がることにより太陽の輻射熱が多くなります。またポリ容器の中央部分を逆三角に切り、上辺を谷折りにして上げることにより蜂が入り易く、雨避けにもなります。

蜂の習性から風上に入口を向けると、容器に入り難いようです。捕獲した場所を調査した結果、次のようなことが解った。

ア. 暑い日は湿地帯に多く、寒い日は日当たりのよい場所に潜んでいると考えられる。

イ. その場所で生まれた蜂の子は、翌年その付近に帰り概ね同じような場所に、営巣するのではないかと考えられる。

ウ. 林地内の営巣は、林縁から10m付近が最も多い結果になっています。

次に当担当区で捕獲した蜂の種類は次のとおりです。

(ア) ツチバチ

(イ) アシナガバチ

(ウ) キイロスズメバチ (通称カメバチ)

(ア) について

一般に低地で乾燥地帯の台地に多く草木、また土の中等に営巣し林地には小さい巣を作り行動範囲を広くして飛び回っている。

(イ) について

日当たりのよい場所の平坦地で、藪・草むらの茂みの中に営巣し、巣の発見は中々難しい。また行動範囲も広く林地の中腹より下に多く潜んでいる。

(ウ) について

樹木・古伐根・崖等に営巣し林地内には見られなく中腹より上を飛び回っている。

(3) 蜂の標本作成について

捕獲した蜂を標本にし、当担当区で実施している緑十字の日を利用し、座談会の中で仲間同志一緒になり意見交換をした。

このことから、蜂の生息している地形等は勿論のこと、未然防止のための作業服装、また天候により蜂が飛来する場所が違ふことから、それにあつた作業箇所への配置、さらに実物を見てメスが刺すことを知つた。捕獲は、地拵を主体に実

施したので時間的に他の事業場へ標本の貸し出しが出来なかったが、来期早々に貸し出しを実施し、未然防止に一層努力していきたいと思っています。

おわりに

蜂の生息については、その地域また気候等により条件も違います。当担当区においても、活動期になると雑草の繁茂が著しく、営巣の発見も中々困難であります。

今回の調査等で私のみ限らず、作業者全員の安全に対する意識が向上し、蜂に対する知識が大いに深まりました。

今後も予防対策等について、一寸したことでも仲間同志で話し合い蜂災害の絶滅に向け頑張っていく考えであります。